

令和元年度 第1回碧南海浜水族館協議会議録（要約）

- 1 日 時 令和元年5月31日（金） 15：30～16：30
- 2 場 所 碧南海浜水族館 研修室
- 3 会議出席者（敬称略）
 - 会長 角谷和彦
 - 副会長 多田宏明
 - 委員 鈴木裕、高松陽子、上田章子、杉浦 明、黒川ひろし、水野裕子
長谷川哲巳、宮原英明、田中智徳、阿知波英明
 - 参与 生田弘幸、奥谷直人
 - 事務局 杉浦英樹、森 徹、地村佳純
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議概要
 - (1) 協議事項
 - ア 令和元年度 事業報告について
 - (2) 報告事項
 - ア 令和元年度 碧南海浜水族館運営研究会議について
 - イ 夏の特別展について
 - ウ リニューアル後の入館者数について
 - エ ビオトープの利用について
 - (3) 連絡事項
 - ア 令和元年度 第2回碧南海浜水族館協議会の日程について
- 6 議事および質疑
 - (1) 協議事項
 - ア 令和元年度 事業報告について
 - 事務局 <資料1により説明>
 - 会 長 何かご意見、ご質問はないか。
 - 委員A 申込み制行事のひとつであるサマースクールについて定員は設けてあるのか。
 - 事務局 サマースクールについては20～25名の定員を設けて開催している。対象学年についても、安全を考慮し、小学3年生から申し込み可能な講座と小学4年生から申し込み可能な講座を設けている。
 - 委員A サマースクール③の「チリメンモンスターを探せ」は初めての開催か。以前、小学校の理科の授業でチリメンを大浜の業者さんから提供してもらい学習教材として使い、色々な種類の赤ちゃんの形態を

学びながら観察する授業は子供たちも大興奮で良い経験だったと記憶している。

三河湾の生物たちをテーマに不思議を発見する良い行事だと思うので、そのような視点も意識して是非、進めていただきたい。

委員 B ペーパーキャップのデザインだが、ミシン目が入ることでハサミを使わなくなったことでより、気軽に参加できるようになった。今後も是非、進めていただきたい。

委員 C 事業計画にこれまで以上に様々な活動を展開していくとの目標が示されているが、これまでも様々な取り組みを行ってきた印象があるが、新しい取り組みとはビオトープでの取り組みなどを指しているのか。

事務局 様々な活動とは、まさに委員ご指摘の通り新たに設置したビオトープでの事業に注力したいという考えを反映させている。ただし、ビオトープに偏り活動を展開するのではなく、事業を整理するなかで、今年開催されるラグビーワールドカップをテーマにした展示なども取り上げるにより色々なジャンルの話題提供が出来るような企画を計画に盛り込んでいる。

委員 C 自然観察会のなかで「森でネイチャーゲーム」とあるが、今までキノコの観察会などを開催していたと思うが、変えた理由は何か？

事務局 ネイチャーゲーム、キノコの観察会共に、当館の観察会としては定期的に開催している企画である。人気のある観察会ではあるが、毎年開催をしていることでマンネリ化してくることも懸念されるため、化石、磯観察などと合わせ年により構成を変えることで、多くの方に参加いただけるよう工夫している。

委員 C 調査活動の項目に三河湾の生物調査とあるが、現在、三河湾内で海藻類の調査をしているので、水族館の魚類調査の際に、是非、協力して実施できないか。

事務局 三河湾の魚類調査であるが、近年、あまり多くの時間を確保できていないが、湾内の調査なので水産試験場さんの協力をこちらも得たいと考えている、また、リニューアルした大水槽についてもテーマを三河湾、伊勢湾の魚としているため、色々な面で助言等も頂きながらより良い展示活動にもつなげていきたいと考えている。

(2) 報告事項

ア 令和元年度 碧南海浜水族館運営研究会議について

研究会議代表 <資料 2 により説明>

会 長 意見質問はないか。特にないようなので、次の報告事項について事務局の説明を求める。

イ 夏の特別展について

事務局 <資料 3 により説明>

会 長 意見質問はないか。特にないようなので、次の報告事項について事務局の説明を求める。

ウ リニューアル後の入館者数について

事務局 水族館の利用実績についてであるがリニューアルオープンした3月23日以降たくさんのお客さんに足を運んでいただいています。オープン以降、入館料金、展示内容も変わり、今は非常ににぎわっている状況である。オープン当初からの数字で前年比約3倍近いお客さんにご来館いただいている。また新しい取り組みとして、情報誌や旅行雑誌等のクーポン対応、JAF優待なども導入したことにより、多くの方にご利用いただいているのも後押ししている状況ではないかと考えている。好調だったゴールデンウィークを過ぎ、これから迎える大きな山場として夏休み、お盆があるため、職員一同、これまでの反省点を改善し、お客さんをお迎えしたいと考えている。

会 長 ただ今の説明について、意見質問はないか。特にないようなので、次の報告事項について事務局の説明を求める。

エ ビオトープの利用について

事務局 <資料4により説明>

会 長 何かご意見、ご質問はないか。

委員B ビオトープでのアユの展示であるが、水族館内の水槽にもアユが展示されており、屋外でも同じ種類の魚を観察できることは比較という意味では非常に面白く、楽しんで観察できた。

委員A 園路に施しているフットプリンであるが、非常に面白い試みであるが、カルガモの足跡であるが、サギなどに見える。カモの仲間には水かきなどがあると思うので、せっかく作るのであれば、もう少し忠実にしてみるとさらによくなるのではないか。

委員C 入館者の分析が難しいが、ビオトープを新たに設置したことによる年齢構成の変化などはあったか。現場の感覚でも良いので教えていただきたい。

事務局 年齢構成までは調査していないため、見た限りの印象になるが、広報へきなんに招待券をつけたことの影響もあるのか、今までよりは年配の方に多くご利用いただいているように感じる。また、これまで同様、家族連れのお客さんも多く足を運んでいただいている。

委員D ビオトープは庭園ではなく自然に作っていくことを目標としているのは理解できるが、木々の成長を待つのではなく、ある程度育った樹木を植えることで、木陰不足していることも解決できるのではないか。

事務局 私たちも早く成長して完成形をお見せしたいと願っている。植物については、種をまく作業は常時行っている。なかなか育ってこない理由は、土作りに時間がかかっている状況もある。また重機で土を固めているため、根付きにくいことも一因となっている。そのため、

もう少し時間がかかると考えているので、定着までは努力していきたいと考えている。

委員D 今年の夏に展示室として利用する研修室であるが、壁はもう少し綺麗にならないか。壁や天井の再塗装、クロスの張替えをすることで、同じ空間でも印象が大きく変わるのではないか。また、展示室として考えた場合、壁面をそのまま利活用して使用できれば将来的なコスト削減にもつながるのではないか。

事務局 クロスの傷みについては施設改修面の項目として認識している。クロスの張替えなど対策を検討していきたいと考えている。

委員E 最近、広報活動として Facebook など SNS での積極的な情報発信を拝見している。そのなかで、動画を使った生物の紹介ではタカアシガニ脱皮やアナゴが好評のようである。動画の良さを活用しながら、普段なかなか見ることのできないシーンをどんどん紹介することで、認知度も上がり来館者も増えていくことが期待できると思うので是非、力を入れてもらいたい。

(3) 連絡事項

ア 令和元年度第2回碧南海浜水族館協議会について

会 長 連絡事項について事務局の説明を求める。

事務局 次年度の協議会の開催日程について、第2回は令和2年の2月下旬から3月上旬を予定している。2回目まで時間が空くが、ご意見、助言等については随時お寄せいただくことで、今後の活動や予算に反映していきたいと考えているので是非、ご協力をお願いしたい。次回の日程は調整次第改めて皆様にお知らせする。なお、本日の議事録は素案を後日送付するので点検をお願いする。

会 長 これで、議事の一切を終わる。